

総合

政治、国際、経済、オピニオン、スポーツ、生活・暮らし、地域、社会、教育、科学・技術、その他

アレルギー発症 抑制分子を発見

花粉症など根本治療に光明

筑波大グループ

花粉症やぜんそく、アトピー性皮膚炎など、すべてのアレルギー症状を抑制する分子を体内の肥満細胞から発見したと、筑波大大学院人間総合科学研究科の

洪谷彰教授らの研究グループが6日付の米科学雑誌「ネイチャーイムノロジー」電子版に発表した。

アレルギー反応は、アレルギーの原因となる抗原と

免疫細胞が作るIgE抗体が、肥満細胞に作用してヒスタミンなどのかゆみ物質を血中に放出して、炎症やかゆみを起こす症状。

これまでアレルギーに対してはヒスタミンの働きを抑える薬剤を中心に治療が行われてきたが、対症療法だったため効果も限定的で、より根本的な治療法の開発が望まれていた。

研究グループは、肥満細胞にある新しい分子を世界で初めて発見し、「アラジ

ン1」と名付けた。さらにアラジン1の遺伝子を持たないマウスをつくり、抗原とIgE抗体を投与してアレルギー反応をみたところ、通常のマウスと比較して、より強い反応を示した。詳細な解析により、アラジン1は肥満細胞からヒスタミンなどの放出を抑制する分子であることが分かった。

洪谷教授は「アラジン1の働きを強める薬剤を開発することで、花粉症やぜんそく、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど、すべてのアレルギーの根本的な治療が可能になる」と話している。

臨床試験が進めば数年後の実用化が期待できるとい

(篠崎理)